

まえがき

昨今、さまざまな形でボランティア活動の育成が展開されています。国レベル、自治体レベル、民間レベル…においていろいろな取り組みがみられます。

ボランティア活動の領域をみても、福祉をはじめ、保健・医療、教育、自然、文化…、そして国際交流の領域にまで及んでいます。

しかし、ボランティア活動の拡大、多様化に伴って、さまざまな課題も浮き彫りにされています。それは時に、ボランティア活動の生命がゆさぶられ侵食されるような動向もみられます。

本書では、これらさまざまな課題の内、いくつかに焦点をしばって述べています。ここで述べた他にも、例えばボランティアズムに関して…はじめ、いろいろな課題がみられます。

従って、本書で取り上げた課題がすべてではありません。また各章間に重複する部分があったりしていることを、まずおことわりしておきたいと思えます。

本書が、ボランティアズムが必ずしも根づいていないわが国において、ボランティア活動を育成していく上で、推進していく上で、少しでも役立てば大へん幸いです。

も く じ

まえがき

1	今、なぜボランティアか―背景要因	5
2	民間性を堅持し、そのよさを生かす	18
3	運動性を基盤に据えた取り組み	23
4	福祉サービスの有償化とボランティア活動	28
5	ニーズの掘り起こし	33
6	ボランティア・コーディネーター	39

7	ネットワーキング	46
8	高齢者・老人クラブによるボランティア活動	51
9	青少年のための参加プログラム	56
10	企業・労働組合によるボランティア活動	62
11	ボランティアグループのたこぼ化現象	69
12	生涯学習とボランティア活動	75
13	問題意識を抱き、自立したボランティアをめざそう	80

あとがき